

2021 年度 環境経営レポート

(2021 年 4 月～2022 年 3 月)



Ⓚ 九州高圧コンクリート工業株式会社

目次

1. 会社概要	1
2. 経営理念	3
3. 環境経営方針	3
4. 環境経営推進体制	4
5. 中長期目標	
(1) 中長期目標(2021年～2023年)	5
(2) 二酸化炭素排出量の推移	5
6. 2021年度環境活動実績	
(1) 活動内容	6
(2) 単年度目標と実績並びに次年度の取組み	7
(3) 事業活動による環境負荷量	9
(4) 特定事業者としての取組み	10
(5) 環境活動コスト	10
(6) 会社収支への貢献	11
(7) 廃棄物ゼロミッションへの取組み紹介	12
(8) 地域貢献活動	12
(9) 環境取組みの成果	13
(10) オール電化の推進	13
7. 2021年度環境関連法規の遵守状況	14
8. 産業廃棄物処理業に関する情報	15
9. 2022年度環境経営目標	
(1) 中長期目標(2021年～2023年)	16
(2) 単年度目標	16
(3) 活動内容	16
(4) マテリアリティ及び中期 ESG 推進方針	17～18
10. 代表者による全体評価と見直し	19

1. 会社概要

基本情報

■事業者名 九州高圧コンクリート工業株式会社 ■代表者 掛林 誠
 ■資本金 2億4千万円 ■設立年月日 1957年11月5日

事業内容

■コンクリートポール及びコンクリートパイル、その他コンクリート製品の生産並びに販売
 ■土木建築工事の設計・施工並びに監督
 ■産業廃棄物のリサイクル及び中間処理業(破砕)
 ■既設コンクリート構造物調査・診断に関する事業

事業所

■本社 福岡市南区向野1丁目13番14号
 ■熊本工場 菊池市旭志川辺1349番地の4
 ■豊前工場 豊前市大字八屋2544番地の61
 ■鹿児島営業所 鹿児島市南林寺町26番4号

事業の規模

■売上高 83.21億円
 ■生産量 58,140トン
 ■工事件数 336件
 ■産業廃棄物処理量 15,762トン

許可内容

■建設業 土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、塗装工事業
 ■産業廃棄物処理業 中間処理(破砕):ガラスくず等(自動車等破砕物を除く)、がれき類

沿革

1957年11月	設立	2011年11月	エコアクション21認証取得
1958年 9月	九州電力(株)にポール納入開始	2012年 9月	再生骨材製造プラント設置(熊本)
1958年10月	豊前工場竣工	2012年11月	再生骨材使用ポール生産開始(熊本)
1964年 4月	PCパイル製造開始	2013年11月	環境活動レポート大賞・九州 廃棄物部門賞受賞
1970年 4月	JR、NTTにポール納入開始	2014年 7月	ポール生産を熊本工場に集約
1971年 7月	鹿児島営業所を設置	2014年11月	環境活動レポート大賞・九州 九州地方環境事務所長特別賞受賞
1977年 4月	電線類地中化製品製造開始(豊前)	2017年11月	創立60周年
1981年 9月	熊本工場竣工	2017年11月	環境活動レポート大賞・九州 エネルギー部門賞受賞
1998年 2月	廃品コンクリートポールの リサイクル事業開始	2019年11月	環境経営(活動)レポート大賞・九州 大賞・九州賞受賞
2001年 1月	ISO9001品質システム認証取得	2020年 2月	環境コミュニケーション大賞 環境経営レポート部門 優良賞受賞
2007年 5月	新JISマーク取得(豊前)	2020年12月	環境経営(活動)レポート大賞・九州 環境経営賞受賞
2007年 7月	新JISマーク取得(熊本)	2021年12月	環境経営レポート大賞・九州 九州地方環境事務所長特別賞受賞
2010年 9月	エネルギー使用の合理化に関する 法律に基づき特定事業者指定	2021年12月	福岡県エコ事業所「地球にやさしい 活動部門」優秀賞 受賞



熊本工場



豊前工場

主な事業

■ポール事業(製造、販売、設計、施工、劣化診断・補修工事等)



コンクリートポール
カラーポール
(九州電力用、NTT用、電管用)
分割式継コンクリートポール
(照明用、防球ネット用、アンテナ用)

■地中線事業(製造、販売、設計、施工、設備の点検・清掃等)



[マンホール]



[マンホール設置工事]



[ハンドホール(機器用)]



■パイル事業(製造、販売、設計、施工等)



[杭打ち工事]

■産業廃棄物処理事業(産業廃棄物のリサイクル及び中間処理)



[廃品ポールの破碎処理]
収集した産業廃棄物(廃品ポール)の
リサイクル促進

◇循環型社会への貢献(資源循環)

○環境衛生資材(リユース)

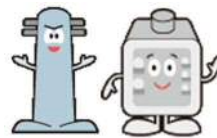
*コンクリートスラッジを有効活用した商品
(殺菌力、吸水力、脱臭力等に効果あり)



[床カラットと12]

○リサイクル製品

*自社製品原料に再生骨材を一部使用



[九電向けポール
九電向けマンホール]



[ポール付属品]

○売却



[路盤材
再生砕砂、再生砕石
コンクリートスラッジ]



[鉄筋]

分別

2. 経営理念

経営理念

「ありがとうと言われる会社になろう」

社 是

- ・事業を通じて、社会に貢献します
- ・事業の安定した成長と健全な発展に努めます
- ・従業員の生活の安定と向上を図ります

行動規範

- 私達は
- ・自分の仕事に対して強い責任を持ち、誠実で誰からも信頼されるよう行動します。
 - ・品質、価格、納期面で競争力を確保し続けるとともに、お客さまに喜ばれる製品・サービスを創造し提供します。
 - ・コミュニケーション豊かな企業風土を醸成し、働き甲斐を感じハラスメントの無い明るく楽しい職場を創ります。
 - ・何事にも前向きに取組み、失敗を恐れず果敢に挑戦します。
 - ・慣例にとらわれず常に柔軟に考え、知恵を出し合います。
 - ・常にお互いの人格や価値観、立場を尊重し、真剣に向き合います。
 - ・ルール・規則、作業手順を遵守し、安全第一を徹底します。
 - ・公平で公正、かつ透明性の高い企業活動を通じ、法令遵守に努めます。
 - ・企業活動を通じて社会の健全な発展に寄与し、信頼される存在であり続けます。
 - ・環境保全の重要性を認識し、事業活動に伴う環境負荷の低減に取組み、環境に優しい企業を目指します。

3. 環境経営方針

環境理念

九州高圧コンクリート工業株式会社はコンクリート製品の生産・販売を中核とする全ての事業活動が地球環境に影響を与えていることを自覚し、地域環境との調和を目指して事業活動に伴う環境負荷の低減に取り組めます。

基本指針

1. 環境活動として、次の重要テーマに取り組めます。
 - (1)温室効果ガス排出量の削減
 - (2)廃棄物量の削減・リサイクルの推進
 - (3)水使用量の削減
 - (4)化学物質使用量の削減
 - (5)グリーン調達推進
2. 環境関連法規等を遵守します。
3. 環境経営目標及び環境経営計画を策定し、継続的に改善を行います。
4. 環境経営を通じて、SDGsの目標達成に向けた活動を積極的に行います。
5. 環境経営方針を全社員に周知し、社員一丸となった環境活動を推進します。
6. 環境経営レポートを作成、公表し、社会とのコミュニケーションを図ります。

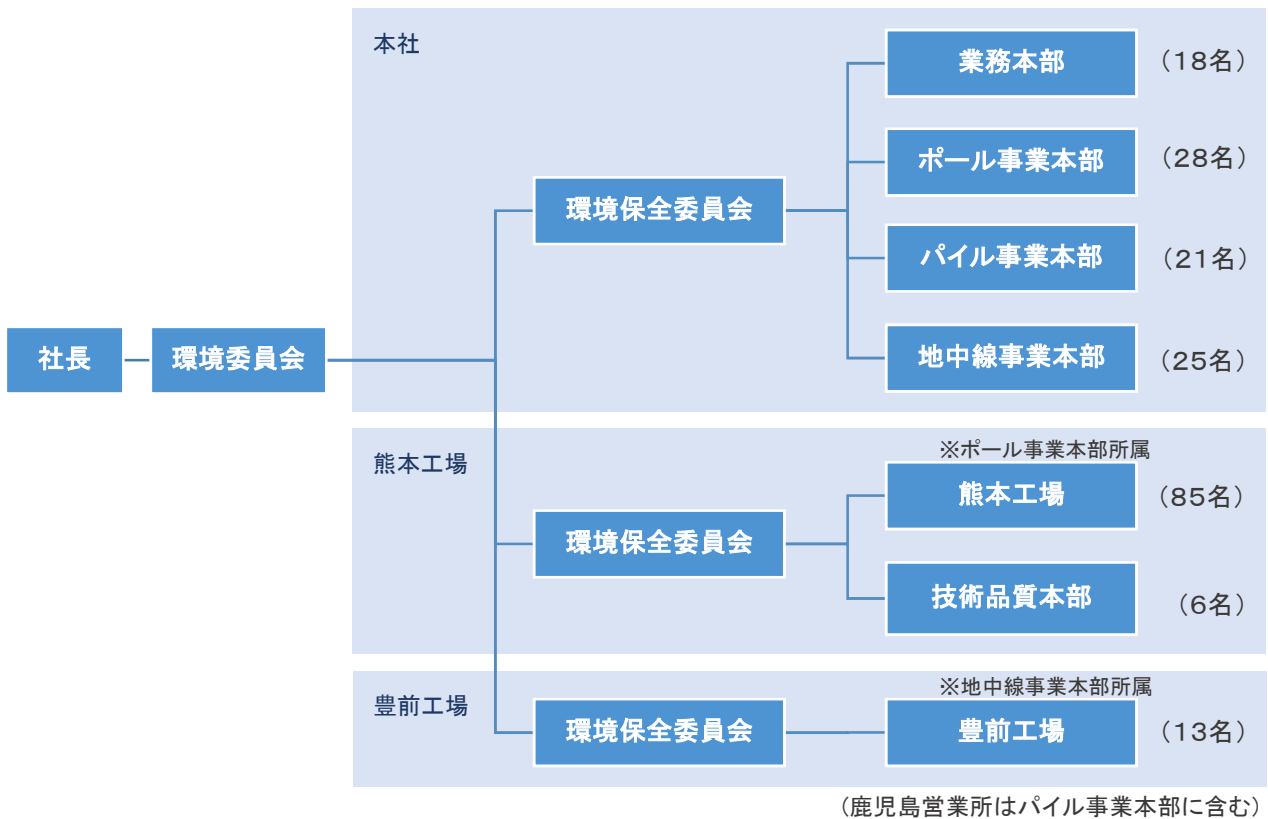
制定2010年12月6日 改定2021年7月1日

九州高圧コンクリート工業株式会社 代表取締役社長 掛林 誠

4. 環境活動推進体制

[2022年7月]

従業員: 196名



組織	責任者	主な役割
全社	代表者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の制定、誓約及び従業員への周知 環境マネジメントシステムの統括 環境管理責任者の任命 環境経営資源の準備 全体の取組み状況の評価と見直し、指示 等
	環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 全社における環境活動の構築・運用責任者 環境委員会の委員長
	環境委員会	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動マニュアルの策定・改訂 環境経営方針、環境経営目標及び環境経営計画の策定・改訂 公害防止に関する対応事項の策定 省エネ法に関する事項 経営資源の配分策定 等
各事業所	環境保全委員長	<ul style="list-style-type: none"> 事業所における環境活動の構築・運用責任者 環境保全委員会の委員長
	環境保全委員会	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営目標及び環境経営計画の啓蒙・実施 公害防止に関する対応事項の実施 環境活動の定期的な確認・評価 評価に基づく改善案の検討・実施 緊急事態への対応 省エネ法に関する事項 外部コミュニケーションへの記録 等
事務局	業務本部	<ul style="list-style-type: none"> 環境への負荷、取組みの自己チェック取りまとめ 環境経営目標、環境改善項目の取りまとめ 環境関連法規制等の遵守状況の確認及び情報収集 環境活動計画書兼進捗管理表による状況報告及び評価 環境経営レポートの作成 等

5. 中長期目標

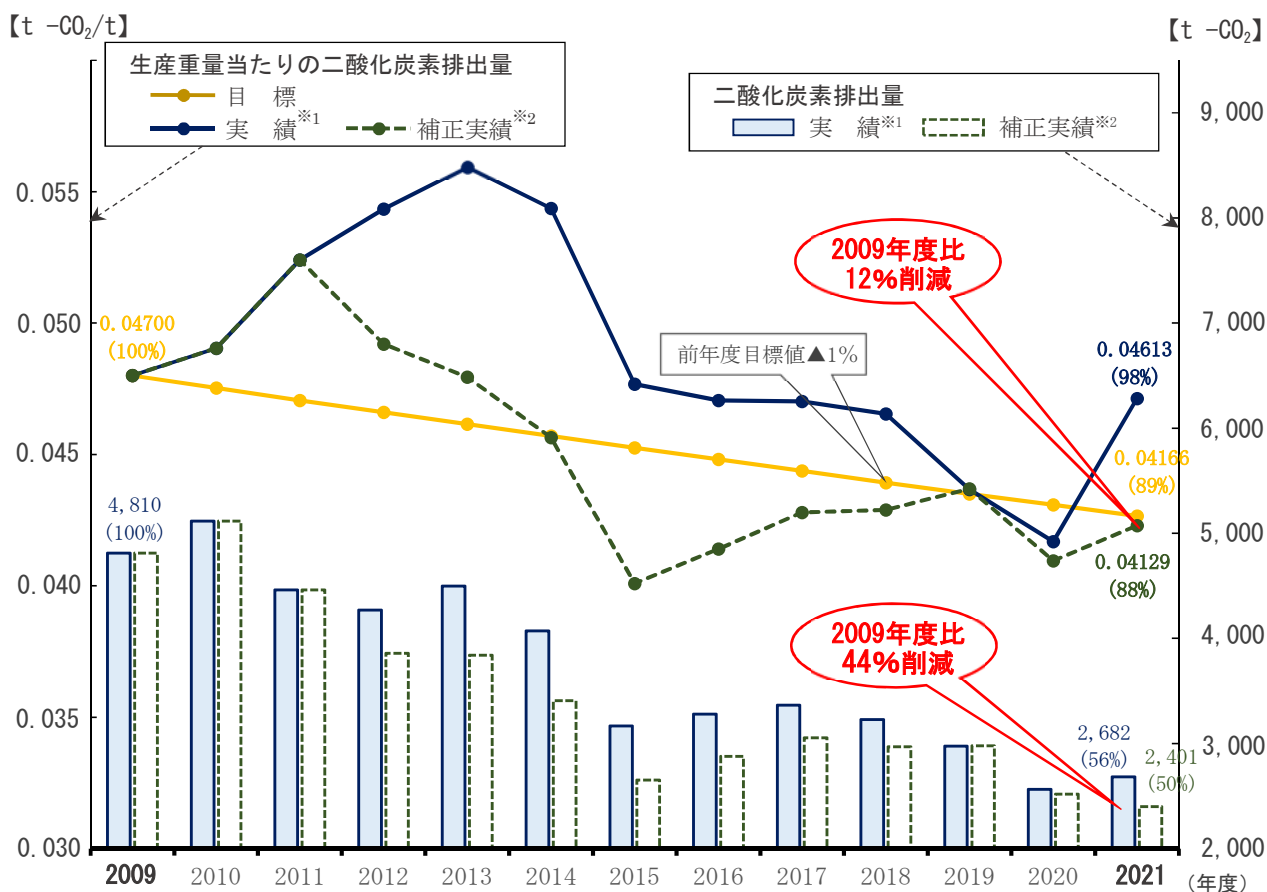
(1) 中長期目標（2021年度～2023年度）

- ・二酸化炭素排出量 … 前年度目標値から1%削減
- ・産業廃棄物リサイクル率 … 基準年度(2020年度)実績値を目標に設定
- ・水使用量 … 前年度目標値から1%削減
- ・事務用品グリーン調達率 … 基準年度(2020年度)目標値を目標に設定

項目		2020年度 (基準年) ^{※1}	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素排出量	目標【t-CO ₂ /t】	0.04208	0.04166	0.04124	0.04083
	実績【t-CO ₂ /t】	0.04068	0.04613	-	-
産業廃棄物 リサイクル率	目標【%】	96.0	96.0	96.0	96.0
	実績(製造業)【%】	100.0	100.0	-	-
	実績(建設業)【%】	99.9	99.9	-	-
水使用量	目標【m ³ /t】	0.75	0.74	0.74	0.73
	実績【m ³ /t】	0.65	0.63	-	-
事務用品 グリーン調達率	目標【%】	86.0	86.0	86.0	86.0
	実績【%】	95.6	94.8	-	-

- ・※1は、向こう3ヶ年目標の基準年度を示す
- ・tは生産重量を示す

(2) 二酸化炭素排出量の推移（2009年度を基準年とする）



- ・※1は、EA21カーボントラン2017に従い九州電力の各年度の調整後排出係数を使用
- ・※2は、九州電力の2008年度調整後排出係数(0.348kg-CO₂/kWh)を使用
- ・()は対基準年度比を示す

(参考)

年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
生産重量【t】	102,343 (100%)	106,514 (104%)	86,795 (85%)	80,027 (78%)	81,833 (80%)	76,296 (75%)	67,823 (66%)	71,232 (70%)	73,097 (71%)	70,853 (69%)	69,726 (68%)	63,046 (62%)	58,140 (57%)
調整後排出係数 【kg-CO ₂ /kWh】	実績 0.348	0.348	0.348	0.503	0.599	0.617	0.598	0.528	0.483	0.463	0.347	0.370	0.479
	補正值 -	0.348	0.348	0.348	0.348	0.348	0.348	0.348	0.348	0.348	0.348	0.348	0.348

6. 2021年度環境活動実績

(1) 活動内容（計画と実績）

環境活動方針	取組み内容		関連SDGs*
地球環境問題への取組み	事業所における省エネ・省資源活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季・冬季における省エネルギー推進の取組み ・エアコン分解清掃(本社：13台) ・熊本工場にオール電化新食堂建設 ・場内設備のエアリーク箇所継続補修 ・工業用水のリサイクル、処理水を粉塵対策に活用 	
	規制対象フロン回収徹底と代替化への取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・機器撤去時のフロン回収実施 ・業務用空調機器の各種証明書の整備 ・業務用空調機器の簡易点検(4回/年) 	
循環型社会形成への取組み	廃棄物のゼロエミッション活動の継続的な展開	<ul style="list-style-type: none"> ・事業運営で発生した産業廃棄物の適切な分別 ・受託回収した産業廃棄物(廃品コンクリートポール)の適正な管理・処理 ・ペーパーレス化の推進等による紙資源の節減 ・機密文書(裁断)の契約業者によるリサイクル処理 ・環境衛生資材「床カラット」の製造・販売 ・スラッジ混合路盤材の運用拡大への検討、実施 	
	グリーン調達推進	<ul style="list-style-type: none"> ・事務用品・建設資材の積極的なグリーン商品購入と購入実績の確実な把握 	
地域環境の保全	化学物質等の適切な管理・処理及び代替化の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・PRTR法に基づいた化学物質の適切な管理 ・環境保全設備の適切な運用、維持監視 ・取扱量1トンの超の物質を届出 	
社会との協調	環境に関するコミュニケーションの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営レポート作成、応募、公開 ・環境経営レポート大賞・九州(九州地方環境事務所長特別賞受賞) ・福岡県エコ事業所表彰(優秀賞受賞) ・活動の社外PRや採用活動、社内教育として活用 	
	地域に密着した環境活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所周辺の清掃活動(本社：毎週、工場：4回/年) ・違反広告物撤去活動(2回/年) ・九電グループ4社合同地域清掃活動 ・女性と子どもの安全みまもり企業参加登録 	
環境管理の推進	環境マネジメントシステムの自立運用	<ul style="list-style-type: none"> ・環境委員会開催(2回/年) ・環境保全委員会開催(本社：2回/年、工場：4回/年) ・内部監査実施 	
	環境教育の実施及び環境情報の共有化	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の情勢変化に対応した環境教育実施(カーボンニュートラル実現への知識共有) ・九電グループ取組み活動への参加推進 ・「九電グループ環境経営推進部会」を活用した情報収集、知見共有の実施 	

※ SDGsと2021年度活動内容との関連性を表示

(2) 単年度目標と実績並びに次年度の取組み ~PDCAを回す~

中長期目標(P5)の展開

①二酸化炭素排出量 … オフィス電力、工場等の電力、低公害車、ガソリン、A重油
 ②産業廃棄物リサイクル率 … 製造業の産業廃棄物、古紙、用紙使用量、スラッジ有効活用、環境関連法令の遵守、建設業の産業廃棄物、産業廃棄物処理業の受託した産業廃棄物

③水使用量 … オフィス水、工場等の水
 ④事務用品グリーン調達率 … 事務用品、建設資材



目標項目 (P)	主な取組み (D)	目標	実績	達成度 %	参考		評価 (C)	次年度の取組みへの展開 (A)
					基準年度比 (基準年度) %	前年度比 (2020年度) %		
【製造業】								
オフィス電力 使用量削減	・クールビズ・ウォームビズの取組み ・空調機器の適正温度管理 ・使用していないエリアの電源OFF	7.66 kWh/m ² 以下	8.90 kWh/m ²	83.8	95.2 (2009)	107.3	C ・クールビズ、ウォームビズ等、省電力の取組みは定着している ・猛暑日対策や新型コロナ感染予防の室内換気により空調機器の使用が増加し、目標未達	・夏季・冬季における節電への取組みを継続 ・安全面・健康面に配慮しながら省電力の取組みを継続
工場等の電力 使用量削減	・設備等エアリーク箇所の総点検 ・受変電設備高効率変圧器への切替 ・照明器具等のLED化	32.8 kWh/t 以下	36.9 kWh/t	87.5	113.9 (2009)	112.5	C ・受注減に伴う生産量減による原単位の悪化、COP増産に伴う時差勤務対応により設備稼働時間が増大し「電力使用量の削減」が未達 ・高効率機器への更新や節電への取組みは定着している	・圧縮空気消費量抑制の取組みを継続 ・製造設備機器等の効率的な運用の一層の徹底 ・高効率機器(空調機器・照明設備等)の計画的更新
低公害車の導入	・車両計画に基づき、低公害車導入	71.0 %以上	88.9 %	125.2	125.2 (2009)	100.0	A ・車両更新時に合わせて、計画的な切替を実施している	・車両計画に基づき、計画的な切替を継続
ガソリン 消費率向上	・エコドライブ10のすすめの継続 ・乗り合わせ声掛け ・TV会議を活用した事業所間移動の低減	13.5 km/ℓ以上	14.2 km/ℓ	105.2	101.4 (2010)	97.5	A ・エコドライブの取組みは定着している ・新型コロナ感染予防による移動自粛や事業所間移動の抑制により、乗用車のガソリン使用量が減少し、全体の消費率が悪化	・エコドライブ10のすすめのビデオやリーフレットを活用し、取組みを継続 ・TV会議を活用した事業所間移動の低減により、燃料使用量削減の取組みを継続
A重油 使用量削減	・蒸気養生槽自動制御(温度管理)装置の設置、蒸気配管ルート見直し	8.97 ℓ/t 以下	8.99 ℓ/t	99.7	74.9 (2009)	99.1	B ・A重油使用量削減の取組みは定着している	・蒸気養生槽自動化装置を活用した養生槽内低温化の検討 ・計画的に熱ロス対策を継続(養生設備の見直し)
産業廃棄物 リサイクル率向上	・分別の徹底 ・環境衛生資材「床カラット12」販売	96.0 %以上	100.0 %	104.2	104.4 (2010)	100.0	A ・リサイクルを前提に取引先を選定し、処理委託を実施している ・顧客への販売が定着している	・リサイクルによる産業廃棄物削減への取組みを継続 ・「床カラット」増産体制の確立や販売拡大に向けた取組みを継続
古紙 リサイクル率100%	・分別の徹底 ・回収 BOX への古紙回収	100.0 %	100.0 %	100.0	100.0 (2009)	100.0	A ・分別や古紙回収の取組みは定着している	・分別を徹底し、リサイクルの取組みを継続
用紙 使用量削減	・両面コピー、裏面使用の推進 ・電子媒体活用によるペーパーレス化	975 枚/人以下	706 枚/人	127.6	71.8 (2010)	89.4	A ・両面コピー・裏面利用が進み、資源有効活用の意識が定着している ・複合機を利用し、FAXのペーパーレス化に取組んでいる	・用紙使用量削減の取組みを継続 ・無線LAN整備及びDocuWorks ソフトウェア活用によるペーパーレス化の推進(本社)
オフィス水 使用量削減	・節水コマの設置 ・節水の推進及び子メーター管理	0.54 m ³ /人以下	0.40 m ³ /人	126.8	102.4 (2009)	97.8	A ・設置メーター管理による節水の取組みは定着している	・水使用量削減の取組みを継続
工場等の水 使用量削減	・工業用水リサイクルの取組み ・子メーター管理及び節水の推進	0.74 m ³ /t 以下	0.63 m ³ /t	115.0	75.3 (2009)	98.1	A ・熊本工場破砕場の粉塵対策として散水量を増やしたことで使用量が増加。散水に処理水や雨水を用いるなど取組みが必要 ・日々の子メーター管理や老朽化配管の点検、整備を実施している	・散水に工業用処理水の活用を検討 ・水使用量削減の取組みを継続
事務用品の グリーン調達率向上	・事務用品購入実績の確実な把握 ・グリーン調達率向上への取組み	86.0 %以上	94.8 %	110.2	150.9 (2009)	99.2	A ・グリーン調達の取組みは定着している	・事務用品購入実績の確実な把握及び、グリーン調達率向上への取組みを継続
スラッジ有効活用による 産業廃棄物削減	・スラッジ混合路盤材の生産量拡大への検討・販売	1,500 t 減	1,326 t 減	88.4	202.1 (2020)	202.1	C ・生産量拡大への取組みを実施したが、要員確保や製造設備の整備等の遅延により、目標未達 但し、取組みの成果は着実に上がっている	・生産量拡大の取組みを継続 ・産業廃棄物の委託処理費削減の取組みを継続 3R(リデュース・リユース・リサイクル)推進の取組みを強化
環境関連法令の 遵守徹底	・内部監査の実施 ・チェックリストの活用	違反件数 ゼロ	違反件数 ゼロ	100.0	100.0	100.0	A ・内部監査により遵守状況の確認や法令等の理解不足に起因したグループ会社の不適切事案(過去発生事案)を共有している ・親会社主催の環境法令に関する理解度調査を実施している	・内部監査による遵守状況の確認・フォローを継続 ・チェックリストを活用し、定期的に遵守状況を確認
【建設業】								
産業廃棄物 リサイクル率向上	・分別の徹底	96.0 %以上	100.0 %	104.2	101.0 (2011)	100.0	A ・分別の取組みは定着している	・分別を徹底し、リサイクルの取組みを継続 優良産廃処理業者認定を取得した処理業者を優先に選定
建設資材の グリーン調達率向上	・建設資材購入実績の確実な把握 ・グリーン調達率向上への取組み	86.0 %以上	100.0 %	116.3	101.0 (2013)	100.0	A ・グリーン調達の取組みは定着している	・建設資材購入実績の確実な把握及び、グリーン調達率向上への取組みを継続
【産業廃棄物処理業】								
受託回収した産業廃棄物 リサイクル率向上	・分別の徹底 ・再生骨材の利用促進	96.0 %以上	99.9 %	104.1	99.9 (2011)	100.0	A ・分別の取組みは定着している ・ポール付属品、路盤材活用による取組みは定着している	・分別を徹底し、リサイクルの取組みを継続 ・再生骨材の利用促進の取組みを継続

注) ・化学物質及び製品・サービスに関する取組みは、環境計画の中で取組む
 ・m³は床面積、t は生産重量、人は事務所人員数を示す

▶ 評価区分 A:達成 B:やや不足(90%以上達成) C:未達

(3) 事業活動による環境負荷量 (事業別)

[]内は2020年度実績

	製造業	建設業	産業廃棄物処理業
事業活動	生産量	工事件数	受託回収した産業廃棄物の処理量
	 コンクリートポール (千トン) <p>55.1 [59.9]</p>	鉄塔基礎工事 (件) <p>90 [125]</p>	受入量 (トン) <p>15,768 [16,072]</p>
	地中製品 (千トン) <p>3.0 [3.1]</p>	電力管路工事 (件) <p>98 [115]</p>	破砕量 (トン) <p>15,768 [16,072]</p>
	 古紙リサイクル率 (%) <p>100.0 [100.0]</p>	建築・土木 構造物基礎工事 (件) <p>70 [53]</p>	再資源化量 路盤材、原材料 (トン) <p>14,658 [14,872]</p>
産業廃棄物 リサイクル率 (%) <p>100.0 [100.0]</p>	その他工事 (件) <p>78 [67]</p>	リサイクル業者に再委託 (トン) <p>14 [15]</p>	
		産業廃棄物 リサイクル率 (%) <p>100.0 [100.0]</p>	形鋼材 (トン) <p>1,095 [1,185]</p>
資源投入量	エネルギー使用量	エネルギー使用量	エネルギー使用量
	電力 (万 kWh) <p>211 [204]</p>	電力(現場事務所) (万 kWh) <p>0.01 [0.23]</p>	電力 (万 kWh) <p>3.6 [3.3]</p>
	A重油 (kl) <p>523 [572]</p>	電力(本社事務所) (万 kWh) <p>11.64 [10.85]</p>	軽油 (kl) <p>63 [65]</p>
	軽油 (kl) <p>24 [25]</p>	ガソリン(発電機) (kl) <p>2 [3]</p>	水使用量 (千m ³) <p>0.4 [0.7]</p>
	その他 (kl) <p>5 [7]</p>	ガソリン(社用車) (kl) <p>46.3 [45.0]</p>	
	水使用量 (千m ³) <p>36 [40]</p>	軽油(社用車) (kl) <p>11.5 [11.3]</p>	
	コピー用紙使用量 (万枚) <p>120 [136]</p>	資材使用量 <p>セメント (トン) <p>14,307 [6,707]</p> </p>	
	化学物質取扱量 <p>メチルナフタレン (トン) <p>6.3 [6.9]</p> </p>	生コンクリート (トン) <p>174 [526]</p>	
	キシレン (トン) <p>0.3 [0.4]</p>	防錆塗料 (トン) <p>1.2 [1.1]</p>	
		鋼材 (トン) <p>36 [44]</p>	
環境負荷量	二酸化炭素排出量 (トン-CO ₂) <p>2,501 [2,348]</p>	二酸化炭素排出量 (トン-CO ₂) <p>198 [180]</p>	二酸化炭素排出量 (トン-CO ₂) <p>181 [180]</p>
	産業廃棄物処分量 (トン) <p>0.0 [0.0]</p>	産業廃棄物処分量 (トン) <p>0.0 [0.0]</p>	最終処分量(委託) (トン) <p>8.4 [8.3]</p>
	化学物質排出量 (トン) <p>0.6 [0.7]</p>		

(4) 特定事業者としての取組み（省エネ法の取組み）

2010年、当社は「省エネ法特定事業者」に指定。エネルギー使用量削減への取組みをスタート

- 取 組 み 対 象 … 電気、ガソリン、軽油、灯油、A重油、LPG
- 努 力 目 標 … エネルギー使用量原単位を基準年度比(2009年度)毎年1%削減

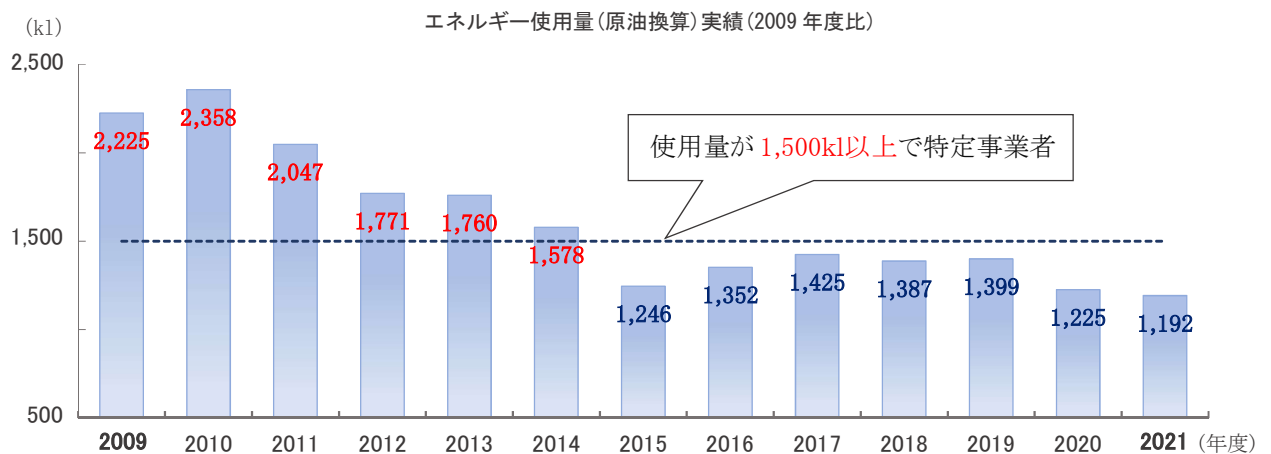
《省エネ法特定事業者について》

全社のエネルギー使用量(原油換算)を継続的に削減した結果、省エネ法特定事業者の指定から外れることを達成

- ① 認可日：2022年3月24日
- ② エネルギー使用量(原油換算)削減への主な取組み事項
 - 2工場体制で製造していたポール生産を、2014年度に熊本工場へ集約(豊前工場ポール生産ライン廃止)。両工場のコンプレッサーを計画的に省エネ型へ更新。更に、豊前工場に高効率型小型ボイラーを導入した。
 - 熊本工場で高強度混和剤使用による製造を確立し、オートクレープ養生を廃止によるA重油使用量削減を行った。

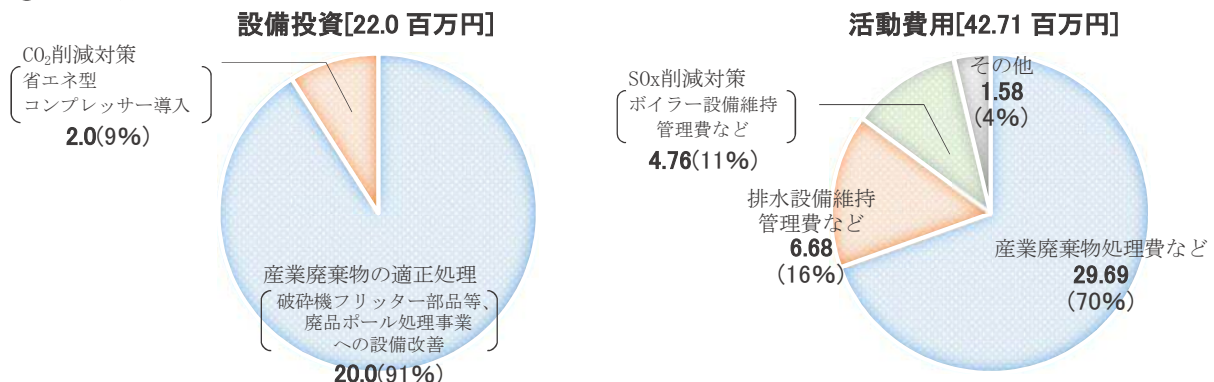
但し、今後もエネルギー使用量の管理は継続

(参考) 特定事業者としてのエネルギー監理実績



(5) 環境活動コスト(実績)

① 投資額



② 主要エネルギーのコスト削減効果

項 目	前年度(2020年度)比	基準年度(2009年度)比
電 力	6.1百万円	6.7百万円
A重油	▲0.3百万円	▲12.7百万円
水	▲0.2百万円	▲3.5百万円

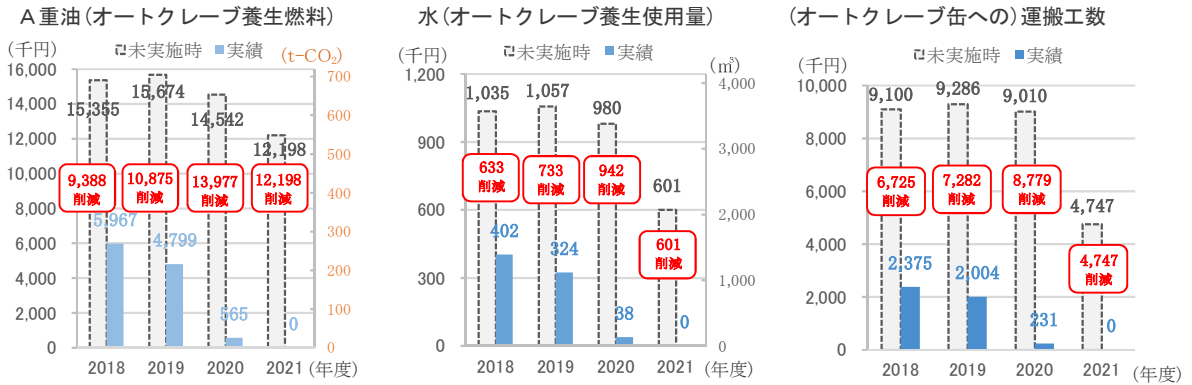
・前年度比：5.6百万円増加
・基準年度比：9.5百万円削減

※原単位換算で算出

(6) 会社収支への貢献

① オートクレープ養生廃止

2018年度に着手し、2020年度にオートクレープ養生をしない製造方法を確立。
→ A重油(二酸化炭素排出量)、水使用量等を大幅に削減。

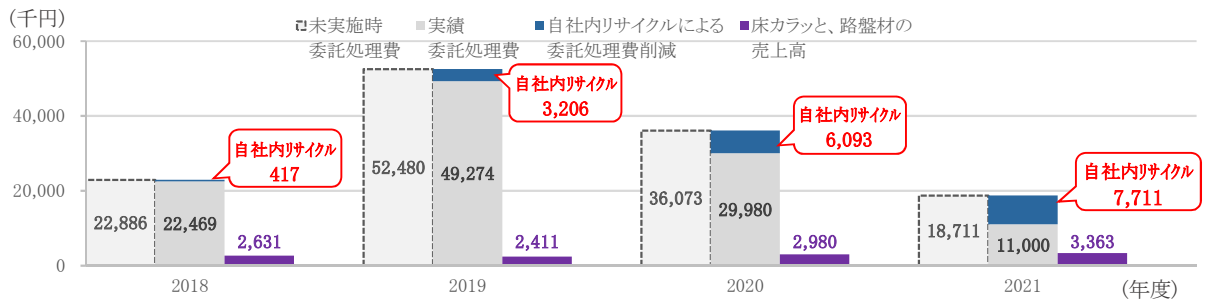


*未実施時とは、オートクレープ養生廃止の改善に着手しなかった費用

② スラッジの再利用

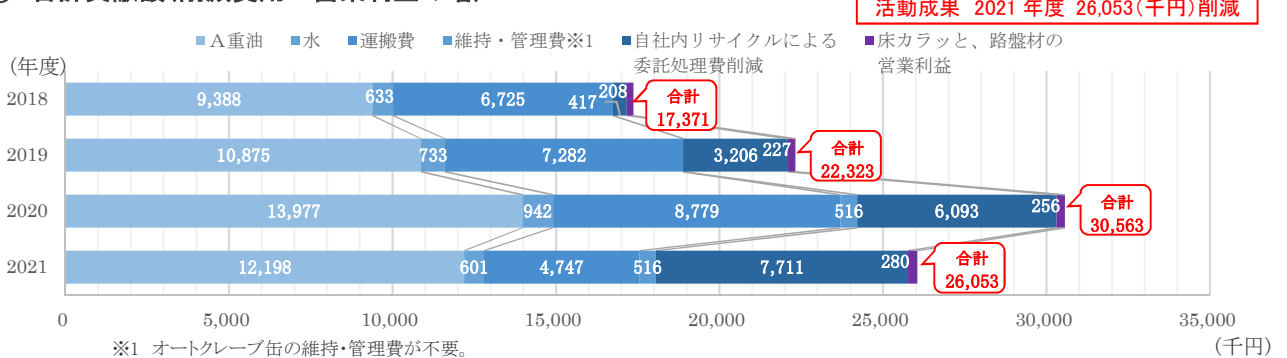
コンクリートポールを製造する過程で発生するスラッジ水(セメントや砂が含有する余剰水)を再利用。

- ① スラッジ水を脱水・乾燥加工し、環境衛生資材「床カラット」として販売。
 - ② 廃品ポールを破碎した再生砕石にスラッジを混合し製品化した「路盤材」を販売。
- 産業廃棄物委託処理費の削減に寄与するとともに売上増にも貢献。



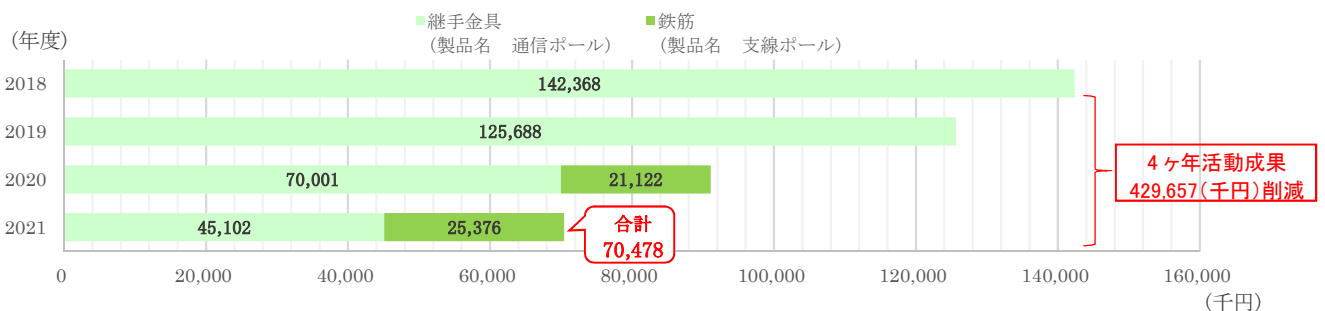
*未実施時とは、自社内リサイクルせず委託処理した費用

③ 合計貢献額(削減費用=営業利益の増)



(参考) 環境コスト効率化以外の効果(削減費用=営業利益の増)

オートクレープ養生をしない製造方法の確立のため、原材料の見直しに着手。
通信ポールの継手金具の仕様変更や支線ポールの鉄筋使用量削減により、原材料コストを大幅に削減。



(7) 廃棄物ゼロエミッションへの取組み紹介

【取組み内容】

- ・コンクリートポールを製造する過程で発生するスラッジ(産業廃棄物)を有効活用し、環境衛生資材(「床カラッと12」:リユース商品)を製造・販売
床カラッと12:主に殺菌・吸水・脱臭を目的とした畜舎の敷床材に使用



製造担当者
熊本工場 川口担当

【担当者から一言】

- ・商品の品質確保のため、日々状態が変化する材料の性質と天候・気温・湿度を考慮し、作業の調整(乾燥時間等)が必要になります。
- ・一人で行う作業が多く大変に感じることもありますが、「産業廃棄物の削減」の取組みを任されているという責任とやりがいを感じています。
- ・更なる増産に対応できるよう、作業方法の効率化に努めていきます。



作業の様子

(8) 地域貢献活動

九電グループ合同地域貢献活動



【参加会社】九電テクノシステムズ、九州電力総合研究所、九州林産



作業の様子

2019年度から地域への貢献と九電グループとしての環境活動PRの目的で、福岡市南区所在の九州林産株式会社、九電テクノシステムズ株式会社の3社で企画実施しているもので、第3回となります。

今回は、九州電力株式会社総合研究所にも参加いただき、向野西公園を清掃しました。新型コロナウイルス感染予防の観点から各社4人以内と参加を制限し、小規模開催となりましたが、次回は感染状況が落ちつき、多くの方が参加できるよう願っています。

各事業所の地域貢献活動



本社



熊本工場



豊前工場

- | | | |
|------|--------|--|
| 活動内容 | (本社) | 違反広告物撤去に伴う清掃活動(2回/年)
事務所周辺の清掃活動(1回/週)※輪番制で全員参加
地域清掃ボランティアへの参加(1回/年)
女性と子どもの安全みまもり企業参加登録 |
| | (熊本工場) | 工場周辺の草刈り及び清掃活動(4回/年)
地域清掃ボランティアへの参加(1回/年) |
| | (豊前工場) | 工場周辺の清掃活動(1回/年) |

(9) 環境取組みの成果

① 令和3年度 第14回 環境経営レポート大賞・九州【九州地方環境事務所長特別賞】受賞

九州環境カウンセラー協会主催の「環境活動レポート大賞・九州」に2021年度も応募し、九州地方環境事務所長特別賞を受賞。前々回の「大賞」、前回の「環境経営賞」に続き3年連続受賞。

- 製造工程における継続的な様々な省エネ活動と生産工程見直しによって電力使用量と燃料使用量の削減を達成されたことが大変わかりやすく表現されている
- 今回製造過程で発生するスラッジなどの産業廃棄物を加工し、製品として販売する等、資源循環への取組みにも積極的に取組まれており、環境経営レポートにはこれらの事業活動の特性を生かした取組み内容が、会社収支への貢献とともに読者にわかりやすくなるように、グラフや写真を効果的に活用して紹介されている
- SDGsやカーボンニュートラル等の社会情勢を踏まえた取組みを表明されるなど、取組み内容や方向性は我が国の環境政策に沿ったものになっているなどを評価していただいた。



② 2021年度 福岡県 エコ事業所「優秀賞」受賞

福岡県環境部主催の2021年度エコ事業所表彰において、当社は地球にやさしい(環境に配慮した)活動部門の「優秀賞」を受賞。



(10) オール電化の推進

長きにわたり工場作業員が利用していた食堂も老朽化したため、創立60周年記念事業の一環として、快適な空間と設備が備わった新たな憩いの場となる食堂を建設。2021年5月に運用開始。

建設に当たっては、需要側のCO₂排出削減を意識した電化厨房を採用。



7. 2021年度環境関連法規の遵守状況

- ・環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果、当社事業に適用される環境関連法規への違反なし。
- ・関係機関からの違反の指摘や、利害関係者からの訴訟等なし。

主な法規制の名称		チェックした内容	評価
環境一般	工場立地法	・特定工場 ・生産施設 ・緑地	○
	公害防止管理者法	・公害防止統括者及び公害防止管理者の選任	○
地球環境	地球温暖化対策推進法	・事業活動に伴う排出抑制 ・排出量の報告	○
	省エネ法	・特定事業者の指定 ・エネルギー使用状況の届出 ・エネルギー管理統括者の選任 ・中長期計画の作成	○
	フロン排出抑制法	・事業者の責務 ・保守点検 ・大気中への放出禁止	○
	オフロード法	・使用の制限	○
廃棄物・リサイクル	廃棄物処理法	・事業者の責務 ・保管基準の遵守 ・許可業者への委託 ・委託基準の遵守 ・マニフェスト管理	○
	建設リサイクル法	・再資源化等の遵守 ・実施状況の記録・保存・報告	○
	自動車リサイクル法	・再資源化預託金等の預託義務	○
	家電リサイクル法	・収集・再商品化に対する費用負担	○
	小型家電リサイクル法	・分別排出、適切な引き渡し	○
大気騒音振動	大気汚染防止法	・ばい煙発生施設等の届出 ・公害防止管理者等の届出 ・排出規制基準の遵守・測定・記録	○
	騒音規制法	・特定施設の届出 ・規制基準の遵守	○
	振動規制法	・特定施設の届出 ・規制基準の遵守	○
水質土壌	水質汚濁防止法	・特定施設等の届出 ・排水規制基準の遵守 ・総量規制	○
	浄化槽法	・浄化槽設備の届出 ・未処理水の放流禁止 ・水質基準 ・水質検査 ・保守点検	○
化学物質	PRTR法	・化学物質管理指針に基づく管理 ・排出量、移動量の届出	○
	毒物・劇物取締法	・毒物又は劇物の取扱及び表示	○

8. 産業廃棄物処理業に関する情報

(1) 産業廃棄物処理施設

項目	熊本工場		豊前工場
事業施設の種類の	産業廃棄物埋立処分(管理型)	がれき類の破砕施設	がれき類の破砕施設
産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類	がれき類
処理能力	埋立地: 12,152m ² 埋立容量: 60,557m ³	160.0トン/日(8時間)	97.6トン/日(8時間)
許可番号	第埋-014号	第中-226号	第457号
許可年月日	1994年9月9日	2012年5月10日	2010年1月22日

(2) 広域認定制度

項目	内容
産業廃棄物の種類	当社製造のコンクリートポールが産業廃棄物となったもの
処理区域	全国
許可番号	第199号
許可年月日	2010年12月8日

(3) 産業廃棄物処分業

項目	熊本工場	豊前工場
事業の範囲	中間処理(破砕)	中間処理(破砕)
産業廃棄物の種類	ガラスくず、がれき類	ガラスくず、がれき類
処理方式	ジョークラッシャー方式	油圧スクリーンクラッシャー方式
許可番号	04325008997	04020008997
許可年月日	2018年9月26日	2022年2月21日
有効期限	2023年9月25日	2027年2月20日

(4) 処理工程図



1. 廃品ポール搬入



2. 廃品ポール粗割



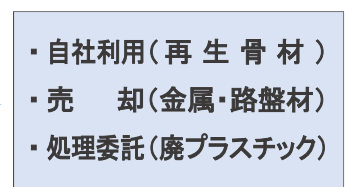
3. 一次破砕



二次破砕



4. 振動ふるい分け



- ・ 自社利用(再生骨材)
- ・ 売却(金属・路盤材)
- ・ 処理委託(廃プラスチック)

9. 2022年度環境活動目標

(1) 中長期目標（2021年度～2023年度）

- ・二酸化炭素排出量 … 前年度目標値から1%削減
- ・産業廃棄物リサイクル率 … 基準年度(2020年度)実績値を目標に設定
- ・水使用量 … 前年度目標値から1%削減
- ・事務用品グリーン調達率 … 基準年度(2020年度)目標値を目標に設定

項目		2020年度 (基準年) ^{※1}	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素排出量	目標【t-CO ₂ /t】	0.04208	0.04166	0.04124	0.04083
	実績【t-CO ₂ /t】	0.04068	0.04613	-	-
産業廃棄物 リサイクル率	目標【%】	96.0	96.0	96.0	96.0
	実績(製造業)【%】	100.0	100.0	-	-
	実績(建設業)【%】	99.9	99.9	-	-
水使用量	目標【m ³ /t】	0.75	0.74	0.74	0.73
	実績【m ³ /t】	0.65	0.63	-	-
事務用品 グリーン調達率	目標【%】	86.0	86.0	86.0	86.0
	実績【%】	95.6	94.8	-	-

(2) 単年度目標

項目	2022年度目標	目標設定の考え方	(参考) 2021年度目標
【製造業】			
オフィス電力使用量削減	7.66kWh/m ² 以下	継続目標として取組み	7.66kWh/m ² 以下
工場等の電力使用量削減	32.8kWh/t以下	継続目標として取組み	32.8kWh/t以下
低公害車の導入	71.0%以上	継続目標として取組み	71.0%以上
ガソリン消費率向上	13.5km/ℓ以上	継続目標として取組み	13.5km/ℓ以上
A重油使用量削減	8.97ℓ/t以下	継続目標として取組み	8.97ℓ/t以下
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	継続目標として取組み(中長期目標)	96.0%以上
古紙リサイクル率 100%	100.0%	継続目標として取組み	100.0%
用紙使用量削減	965枚/人以下	九電グループ目標に従い前年度目標▲1%	975枚/人以下
オフィス水使用量削減	0.54m ³ /人以下	継続目標として取組み	0.54m ³ /人以下
工場等の水使用量削減	0.74m ³ /t以下	中長期目標に従い前年度目標▲1%	0.74m ³ /t以下
事務用品のグリーン調達率向上	86.0%以上	継続目標として取組み(中長期目標)	86.0%以上
スラッジ有効利用による産業廃棄物削減	1,500t減 (再生路盤材原料に活用)	継続目標として取組み	1,500t減 (再生路盤材原料に活用)
環境法令違反及び環境事故の防止徹底	違反件数ゼロ	継続目標として取組み	違反件数ゼロ
【建設業】			
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	継続目標として取組み	96.0%以上
建設資材のグリーン調達率向上	86.0%以上	継続目標として取組み	86.0%以上
【産業廃棄物処理業】			
受託回収した産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	継続目標として取組み	96.0%以上

※m²は床面積、tは生産重量、人は事務所人員数を示す

(3) 活動内容

地球環境問題

- ・エネルギー消費量の抑制(エアー漏れ、熱漏れ継続整備)
- ・コンクリートへの亜硫酸リチウム混入によるCO₂吸着等CO₂有効活用の取組み

循環型社会形成

- ・「コンクリートロス低減」、「スラッジ無害化処理による環境衛生資材へ再使用」、「スラッジ再生路盤材原料としての資源活用」を中心とした3R(リデュース・リユース・リサイクル)推進への取組み

地球環境の保全

- ・環境保全設備の適切な運用(環境法規に関する測定[濃度・排出量・騒音・振動])

環境管理の推進

- ・環境関連法規等の特定及び管理表に基づく確実な遵守評価の実施
- ・一般ごみ削減に向けたマイボトル持参運動実施

SDGsの推進

- ・「マテリアリティ及び中期ESG推進方針」(新規)について各事業へ展開(P.17に掲載)

(4) マテリアリティ及び中期 ESG 推進方針

1. 方針 親会社(九州電力株式会社)がサステナビリティ経営を目指す「サステナビリティ基本方針」を定めたことに呼応して、2022年度より当社版マテリアリティ及び中期 ESG 推進方針を定め、その取組みに着手

- ・マテリアリティ…サステナビリティ経営を進める上での重要課題
- ・中期 ESG 推進方針…マテリアリティの具体的な取組みの方向性を整理

2. マテリアリティ及び ESG 推進方針 ※重要項目抜粋

(1) 脱炭素社会の牽引：2050年カーボンマイナスの実現（マテリアリティ項目）

マテリアリティ主要課題		中期 ESG 推進方針		
		推進方針	取組内容(中期目標)	
事業の推進	電源の低・脱炭素化(系統)	配電用品の低炭素化	・コンクリートポールの低炭素化推進 ・CO2吸収固定可能なコンクリート製品開発	
		電化の推進	製造設備	・工場に適した電化動向調査・検討(重油等化石燃料による熱源・動力源代替)
	業務設備		・社有設備について老朽更新時に高効率なオール電化機器を採用 福利厚生施設：福岡寮(2020年10月)、熊本工場食堂(2021年4月)オール電化採用	
	運輸		・リース車のEV化(PHV・EV) ・リース車両のEV化(車両更新の都度)。条件の整った車両・車種から随時対応	
	省エネの推進	製造工場・事業所における省エネの推進	・製造設備・業務設備の運用対策による省エネの推進	
		事業所における省エネ・省資源活動の推進	・老朽化設備の高効率機器への更新	
		効率的かつ適正な設備形成	・事業における継続可能な省エネルギー活動の実践 ・工場におけるエネルギー診断の実施。結果に基づく高効率機器への計画的置換	
	環境負荷の低減	循環型社会形成	産業廃棄物の適正管理・処理	・リサイクル活動(スラッジの再利用…床カレット、路盤材として販売、エコタンカル等)の採算性等を踏まえながら事業拡大を指向
			グリーン調達	・グリーン調達の推進(グリーン調達率：100%)
		環境管理の推進	・環境マネジメントシステムの自立運用 ・環境教育の実施及び環境情報の共有化	・環境活動の確実かつ効果的な実施 環境委員会(2回/年)、環境保全委員会(本社：2回/年、工場：4回/年)、内部監査 ・エコアクション21「環境経営レポート」を活用した環境教育の実施 ・「九電グループ環境担当者連絡会議」を活用した法令等情報収集、知見の共有

(2) エネルギーサービスの高度化（マテリアリティ項目）

マテリアリティ主要課題		中期 ESG 推進方針	
		推進方針	取組内容(中期目標)
事業の推進	エネルギーの安定供給	・エネルギー安定供給に資する、送配電事業の開発	・配電線支持物の点検・補修・補強技術の高度化 ・災害に強いコンクリートポールの開発

(3) スマートで活力ある社会の共創（マテリアリティ項目）

マテリアリティ主要課題		中期 ESG 推進方針	
		推進方針	取組内容(中期目標)
事業の推進	安心・安全で快適なまちづくり	・地域の安心・安全等に寄与	・地域に密着した活動の推進 ・当社製品を活用した防災の提案 ・九州内エリアでの都市開発案件に対し、商品・施工技術を積極的提案

(4) ダイバーシティ&インクルージョン（マテリアリティ項目）

マテリアリティ主要課題		中期 ESG 推進方針	
		推進方針	取組内容(中期目標)
事業の推進	人権の尊重	・人権意識の徹底	・サプライチェーン全体を含めた重大な人権侵害案件ゼロを目指す ・特にパワハラ、セクハラ撲滅
	安全と健康の最優先	・重大な労働災害の撲滅に向けた各種取組の徹底	・安全委員会の活性化、委託・請負先含めた重大災害ゼロ ・経営チームによる安全パトロールの活発化

(5) ガバナンスの強化（マテリアリティ項目）

マテリアリティ主要課題		中期 ESG 推進方針	
		推進方針	取組内容(中期目標)
事業の推進	コーポレートガバナンスの実効性向上	・取締役会の実効性向上	・監査役により的確なチェック。それを可能とする監査役への十分な支援
	情報セキュリティの確保	・個人情報取扱いに対する意識啓発・再発防止の徹底 ・サイバー攻撃の脅威に対する情報収集・実効性のある対策の実施	・毎年度、必ず全従業員向けの勉強会を実施し、意識向上に努める ・九電情報通信本部殿の支援を得て、勉強会開催等により、情報共有・意識改革に努める ・九電情報通信本部殿主催のサイバー攻撃模擬訓練に参加し、適切な対応策を学ぶ

10. 代表者による全体評価と見直し

1957年創業の当社の環境活動は、2011年のエコアクション21認定制度への加入以降、本格化しました。そういう意味で当社の環境活動の取組みは歴史的にはまだ新しいと言えます。

しかし、創立60周年を迎えた2017年、環境活動レポート大賞・九州エネルギー部門賞の受賞により、それまでの模索的な取組みからより体系的な取組みへと変化させることができました。エコアクション21への対応自体が当社従業員全体の環境活動への意識の高まりにも寄与したと感謝しています。

これまで、環境への取組みを地道に行ってきた努力と成果が、2021年の環境経営レポート大賞・九州『九州地方環境事務所長特別賞』の受賞、並びに福岡県エコ事業所『優秀賞』の受賞に繋がっているものと存じます。

近年は、豪雨災害、猛暑、暖冬など地球温暖化の影響と考えられる異常気象が各地で発生しています。そのような中、九州電力は「九電グループカーボンニュートラルビジョン2050」を掲げ、グループ一丸となって、カーボンニュートラル実現に向けて取組む方向性を示しており、当社としても、2022年2月に「マテリアリティ及び中期ESG推進方針」を策定し、カーボンニュートラルに対しても積極的に取組むこととしました。

(1) 2021年度活動の総括

活動全体として、環境経営方針に基づく環境計画の策定及び実績の管理、環境関連法規等の遵守状況のチェック、教育・訓練の実施等に加えてそれら活動情報の公開も継続的に実施しており、活動は着実に定着してきていると評価しています。

主な取組みとしては、

- ① 主要管理項目16項目のうち、13項目については目標を概ね達成しました。

「工場及びオフィスの電力使用量」については、主力製品であるコンクリートパールの生産量が減少し生産t数当たりの電力使用量が増加しました。加えて、熱中症対策や新型コロナウイルス感染症予防対策の室内換気により、空調機器の使用が増加したことなど、安全衛生上やむを得ない事由によるものでした。

「スラッジ有効利用による産業廃棄物削減」については、要員確保や製造設備の遅れがあり目標未達となりましたが、削減量の実績は昨年度の2倍であり、取組みの成果は上がっていると評価しています。

- ② 2018年度に着手した「オートクレーブ養生廃止」を含む、これまでの環境負荷低減の取組みにより、全社のエネルギー使用量(原油換算)を1,500kl未満まで低減し、2022年3月に省エネ法特定事業者の指定取消を申請し承認されました。

(2) 2022年度取組み

2022年度は、引き続きPDCAサイクルを確実に回しながら環境負荷の低減とコスト削減を実現します。

これまでの省エネルギーの取組み、地域貢献活動に加え、製造工程で発生するスラッジの3R(リデュース、リユース、リサイクル)をより一層推進し、産業廃棄物を削減します。

新たに「マテリアリティ及び中期ESG推進方針」を策定し、「製品素材や製造時の低炭素化・脱炭素化の推進」や「社用車のEV導入の検討」等、カーボンニュートラルの実現に向けた取組みを推進します。

当社は、社会インフラ形成の一翼を担う企業として、SDGsやカーボンニュートラルの実現に取組み、その道程を会社成長の機会と捉え、引き続き環境経営を推進して参ります。



本レポートについてのご意見・お問い合わせ先

九州高圧コンクリート工業株式会社

環境管理責任者	取締役常務執行役員 業務本部長	仲野 眞司
エネルギー管理企画推進者	業務本部総務グループ長	森下 志朗
環境管理担当者	業務本部総務グループ	松田 祐也

TEL (092) 554-6650 FAX (092) 554-6702 <https://www.kyuatsu.co.jp/>

HP用QRコード



2022年8月1日発行